

おくすりQ&A

人によって薬を使う量、使い方が違うのはなぜ？

Q. 同じ薬を処方されても、薬を使う回数や量、時間が人によって異なることがあるのは、なぜですか？

A1. 医薬品には、**症状の強さや患者さんの状態に応じた、使用する回数・量・時間が決められている**からです。

医師が処方する医薬品には、医療関係者向けの医薬品情報が記載された文書が添付されており、その中には「**効能・効果**」、「**用法・用量**」という項目があります。「**効能・効果**」には、使用することで得られる効能、または効果が認められている疾患や症状が、「**用法・用量**」には、それぞれの疾患や症状に合わせた使用回数、使用量、使用時間などが記載されています。**肝臓・腎臓は体内に吸収された薬を体外に排出する働きをもつ**ため、患者さんの肝機能・腎機能に合わせて細かく用法・用量が設定されている医薬品もあります。

A2. 医薬品の中には、**他の薬と同時に使用することで効果が減弱するもの**があり、併用する薬によっては、使用間隔を変えた方がよいこともあるからです。

たとえば、抗生物質のクラビット錠は鉄剤と同時に服用すると吸収が阻害されてしまい、効果が減弱することがわかっています。薬局では、そういった医薬品が処方せんに記載されている場合は、医師に連絡し、用法などの変更を提案することがあります。

A3. 医薬品には複数の効能・効果をもつものがあり、**治療する疾患によって用法・用量が異なる場合がある**からです（下表）。

治療する疾患によって用法・用量が異なる医薬品の例

| 薬品名 | 治療する疾患の例 | |
|----------|----------------------------|------------------------|
| | 少ない量で治療 | 多い量で治療 |
| バファリン配合錠 | 狭心症、心筋梗塞、脳梗塞における血栓・塞栓形成の抑制 | 歯痛・生理痛・頭痛、感冒（発熱）、坐骨神経痛 |
| ニュープロパッチ | レストレスレッグス症候群（むずむず脚症候群） | パーキンソン病 |
| アーチスト錠 | 慢性心不全 | 高血圧症 |

医師は診察・検査結果や併用する薬によって、処方する医薬品の用法・用量を調整しています。用法・用量を守らずに薬を使用すると、効果が発揮されなかったり、副作用があらわれる可能性が高まることもありますので、指示された用法・用量を守るように心掛けましょう。

* 症状に合わせて用法・用量を調節する薬もあるので、薬を使用する際は必ず主治医の指示に従ってください。

執筆薬剤師 赤澤 真

わたしの健康とくすり

第224号



今月の内容

- ・レビー小体型認知症
- ・使用済み注射針の回収にご協力ください
- ・人によって薬を使う量、使い方が違うのはなぜ？

キバナオウギ（マメ科）

中国、モンゴル、ロシア、朝鮮半島に分布する多年草で、日本の高山に分布するタイツリオウギはこの変種です。茎は高さ0.5～1mになり、葉は奇数羽状複葉です。夏、茎頂に花穂を出し、淡黄色の花をまばらに付けます。太く長い根は乾燥して黄耆（オウギ）という生薬にします。黄耆は強壮性の生薬として漢方薬に配合されるほか、韓国料理の参鶏湯にも使われています。

写真・文 指田 豊

2014年9月発行

発行者 八王子薬剤センター 茂木 徹

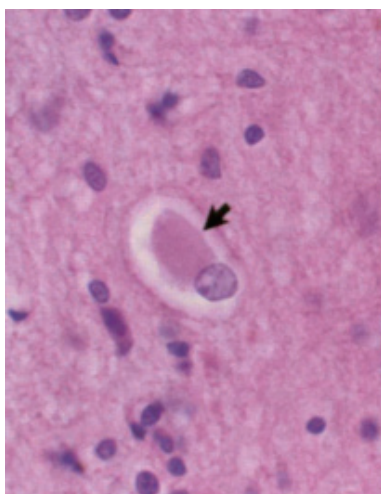
東京都八王子市館町 1097 電話 042-666-0931

協力 八王子薬剤師会

認知症とは？ ～その4～

レビー小体型認知症

認知症の原因となる疾患の中でアルツハイマー病に次いで多い「レビー小体型認知症」は、**レビー小体という物質が大脳皮質に沈着することで、進行性の認知機能障害をきたす**ものです。1976年に精神科医の小阪憲司先生が最初に報告し、当初は新しい病気「瀾漫（びまん）性レビー小体病」として報告されましたが、現在では、パーキンソン病に認知症が合併した類似の疾患として扱われています。



大脳皮質に出現するレビー小体。中心部が赤色に染まり、周りが明るく見える円形の部分。 α -シヌクレインというタンパク質からなる。

最も典型的な症状は**幻視**です。内容はさまざまですが、たとえば「白い着物を着た少女が隣の部屋でまわりをついてる」など、人が登場するリアルなものが多いことが特徴です。他には、**睡眠中に体を動かしたり大声をあげたりするレム睡眠行動異常**、さらに、**小刻み歩行、筋肉のこわばり、転倒しやすいなどのパーキンソン症状、注意や覚醒レベルの変動**などがあります。さらに、**薬に対して過敏に反応する傾向が強く**、抗うつ剤、抗パーキンソン病薬、抗認知症薬などを使用すると副作用が出やすいという特徴があります。

画像診断では、脳血流シンチでの後頭葉の血流低下、MIBGシンチでの心臓交感神経節の異常（MIBG＝メタヨードベンジルグアニジン）、ダットスキャン®（成分：ヨード123標識イオフルパン）でのドーパミンレセプターの異常を検知する**核医学検査が有用**です。薬物治療では、アリセプトを中心とした抗認知症薬が有効とされていますが、**確定診断が難しく、薬剤過敏性がある病気**ですので、**専門医の受診が重要**と考えます。

★次回は「アルツハイマー病の治療法」についてお話しいたします。

東京医科大学八王子医療センター高齢診療科 金谷 潔史

ちょっとお耳を……

使用済み注射針の回収にご協力ください

近年は在宅医療の普及により、**ご家庭で注射薬を使用する機会が増えています**。また、糖尿病を治療中の患者さんの中には、インスリンを注射するための**自己注射器**や、血糖値を測るための**自己血糖測定器**を自宅で使用している方がいらっしゃいます。こうした医療機器の使用時には、専用の針を用います。直接体内に入るものですから、無菌状態で包装されたものを使用し、通常は使い捨てにします。

ご家庭で使う主な注射針には以下のものがあります。

- ・インスリンの万年筆型注入器用注射針（ペンニードル32G テーパー® など）
- ・血糖測定時に血液を出すために使用する血糖測定用穿刺針（ジェントレット針® など）
- ・点滴を投与する際に皮膚に刺すフーバー針（コアレスニードルセット® など）
- ・点滴が入っている容器に刺したりする輸液セットの端のびん針（テルフュージョンポンプ用チューブセット® など）

上記以外にもご家庭で使用する針は多くあります。**使用済みの針（注射針・穿刺針）は、血液を介して病気に感染するリスクがあるため、他の人に刺さると非常に危険**です。実際に、使用済み注射針を一般家庭ごみとして捨てたために、ゴミ回収業者の清掃員に刺さったという事故の報告もあります。そこで、東京都薬剤師会では、患者さんから使用済み注射針を回収し、安全な方法で処理しています。

以下の手順で、使用済み注射針の回収にご協力ください。

- ①薬局で注射針を受け取ったり穿刺針を購入した際、**専用の無料回収ボトルも受け取ってください**。
- ②使用済の注射針はキャップをして回収ボトルに入れてください。
- ③中がいっぱいになったら、回収ボトルを受け取った薬局までお持ちください。新たなボトルをお渡します。

※**使用済み注射針の回収は無料**です。薬局で回収したボトルは薬剤師会に集められ、適正な処理をする業者に依頼して焼却処分を行っています。

使用済み注射針の回収にご協力いただくことで、誤って他の人に刺さってしまう事故を防止できます。**周りの方の安全を守るために、ご協力をお願いします**。

参考

一般社団法人八王子薬剤師会八王子管理センター「八王子薬剤師会会員薬局のご案内」

http://www.hat-pa.gr.jp/main/yakkyoku/y_index.html



執筆薬剤師 岡部 礼典